

## バングラデシュにおける初等教育の進歩：就学率と男女格差の解消

バブル・ラフマン (バングラデシュ)

バングラデシュは新興経済国の中で最も将来性のある国の一つですが、このバングラデシュのような開発途上国にとって極めて重要となるのが、未来の労働力を育成するために投資を行うことです。そのため、国連のミレニアム開発目標においても「普遍的な初等教育の達成」が「目標 2」に掲げられています。

バングラデシュの教育分野への公的支出は、対 GDP 比 3%未満です。2013 年の国家予算における教育分野への配分は 3 番目に大きく、2,511.4 億タカとなっています。



バングラデシュにおける女子の人口は約 1,600 万人で、総人口の 10%を占めています。そこで、この国の女子を教養のある女性に育成することが大変重要となります。もし費用対効果を分析すれば、間違いなく効果が費用を上回るでしょう。女性に教育を受けさせることで、世帯収入の増加や熟練労働力の増強をもたらすだけでなく、個々の女性がより社会的に動きやすくなります。

しかし、農村家庭では娘を学校に通わせないのが慣習となっています。これは、女性は単に家庭を切り盛りするためだけに生まれてきた存在だと信じられているからです。しかし農村地域におけるこのような考えは、バングラデシュが社会経済的な進歩を遂げるに従い、徐々に変わりつつあります。



バングラデシュは、初等教育の拡充において目覚ましい発展を遂げており、特に就学率の向上と男女格差解消の面でそれが顕著です。その結果、2016 年現在で識字率 70%を達成しています。

国連開発計画の統計によると、バングラデシュの人間開発指数(HDI)は 2006 年時点で 177 か国中 137 位であったのに対し、2015 年には 188 か国中 142 位となっています。

また、1999年における男子の就学率は57.46%であったのに対し、女子は42.54%でした。しかし2003年には、男子の就学率が51.52%に減少したのに対し、女子は48.48%まで増加しました。そのため、就学率における男女格差は徐々に縮小しつつあります。この背景には、6年生から10年生までの女子生徒が政府や援助団体から奨学金の給付を受けていることがあります。さらに、政府は女子生徒の授業料を学校に支給しています。

20年前、男女間の格差は今よりも大きい状況でした。女子の中等教育への参加がこれほど改善した主な要因は、バングラデシュの農村部で実施されている女子中等教育奨学金プログラムにあります。このプログラムを実施することで、国連ミレニアム開発目標において提唱されている「初等・中等教育における男女格差の解消」へとつながっていくでしょう。このような便益は、貧困層や女性こそが享受できるものでなければなりません。

しかし多くの親は、娘に中等教育を修了させることよりも見合い結婚をさせることの方を優先させており、これが女子生徒の中途退学の主な原因だと考えられています。

アサドゥラ M. N.博士およびチョードリ N.博士による研究（2006年）では、バングラデシュの教育における男女格差が、その後の女性の進路に様々な形で重要な影響を及ぼすということが明らかになっています。女性の進路は、バングラデシュにおける社会的、宗教的、経済的価値観に少なからず関係しています。

2001年から2003年までの間、大都市圏では一校当たりの就学率は増加傾向にあるのに対し、地方都市や農村地域では減少傾向にあります。

コペンハーゲン・コンセンサス・センターのビョルン・ロンボルグ博士は、ある記事で次のように述べています。「近年、バングラデシュにおいて初等教育が大幅な進歩を遂げたことこそが、普遍的な初等教育による就学率の上昇やジェンダー平等といった、ミレニアム開発目標のうちの2つの目標を達成した要因です」

バングラデシュには公立小学校が63,601校あり、生徒数は21,932,638人にのぼりますが、教師の数は322,766人とどまっています。

教育省教育情報統計局(BANBEIS)が2014年に発表した調査報告書によると、女子の68%および男子の57%が中学校に入学しています。しかしその後、47%の女子生徒が中途退学しているのに対し、男子の中途退学者は35%です。

国連開発計画による人間開発報告書2015において、バングラデシュの人間開発指数(HDI)は188か国中142位で、人間開発中位グループに分類されています。このHDIは、人間開発に関する基本的な側面に関して、ある国における平均達成度を測るための指標です。すなわち、人間開発の3つの基本的な側面—健康で長生きできるかどうか、知識を得る機会があるかどうか、人間らしい生活を送れるかどうか—について、進歩の度合いを長期にわたって測定するための総合的な指標です。

この「知識を得る機会」に関しては、1980年から2014年の間に、バングラデシュの平均就学年数（25歳以上の人が生涯を通じて受けた教育年数の平均）は3.1年延び、また生涯予測就学年数（現在の年齢別就学率が変わらないと仮定した場合に、いま就学開始年齢の子供が生涯を通じて通算何年間の学校教育を受けるかを予測した数字）は5.1年延びています。バングラデシュのHDIは、人間開発報告書2014では143位でしたが、人間開発報告書2015ではそこから順位をひとつ上げて142位となっています。